

新書紹介

浪費の時代を超えて

ローマクラブ第四レポート

D・ガボール/U・コロソボ著 鈴木胖訳

ダイヤモンド社 A5版 二九六頁 二四〇〇円

東京サミットが開催され、「省エネ」という言葉が流行語となった今年ほど、エネルギーの問題が一般の関心をよび、論議されたことはなかったであろう。たしかにエネルギーをはじめとして、人類は現在、地球規模のさまざまな難問に直面している。天然資源の枯渇、発展途上国における人口増加、食糧の不足、生態系バランスの破壊、環境汚染の進行、管理社会の人間疎外、軍拡、インフレ、通貨不安等。それらは独立した問題ではなく、複雑に相互作用しあう長期的なプロブレマティク(問題複合体)となっている。来たるべき二二世紀へむけ

て、人類はその英知をいま試されている。

本書は『成長の限界』、『転機に立つ人間社会』、『国際秩序の再編成』に続くローマクラブの第四レポートであり、科学技術者の側からなされた未来へのひとつの回答である。レポートは、エネルギー、材料、食糧の需給が現在どのような状況にあり、将来にわたって十分な供給を保証するにはどのような科学技術の研究、開発が必要かというところを、具体的事例を通して詳細に論じている。レポートの基調となっているのは、表題にも示されているとおり、現在の先進工業社会が本質的に資源

浪費的な構造をもち、大量の物とエネルギーを「浪費」しているということである。それにひきかえ、発展途上国では物質生産の拡大がすすまず、生活の基本的ニーズ(その代表が食糧)さえ満足に充足されていない状態にあるという認識である。

本書は七章から構成され、エネルギー、材料、食糧の三つの章が中心をなしている。結論と提言を簡単に紹介しよう。

エネルギー。エネルギー問題の解決には、エネルギー節約とエネルギー供給力の拡大という二つの方向が必要である。エネルギー節約については、先進国の第一の主要な努力目標とされ、長期的にはエネルギー節約技術、エネルギー低消費型製品及び生産システムの開発が強調されている。エネルギー供給力の拡大については、種々のエネルギーの可能性を検討し、現在の化石燃料にかわる新しい永続的なエネルギーとして核融合と太陽エネルギーをあげている。また代替エネルギー開発にはタイムラグが存在するため、十分な資金と長い研究期間が必要で

あるとしている。

材料。材料生産を拡大する技術開発、材料生産プロセスの改良、エネルギー集約度の低い材料の使用、使用済み材料のリサイクル等の積極的な推進。

食糧。食糧については、最も重要で緊急な課題として述べられている。現在、少なくとも五億人から一〇億人の人々が、恒常的な栄養失調、食糧不足の状態におかれている。食糧問題解決には、基本的に四つのアプローチが必要である。すなわち、①人口のコントロールと効率の悪い食品の制限により、需要の増大を抑えること、②食糧の分配を改善すること、③食糧生産の増加、④収穫、貯蔵、加工時の余分の無駄を減らすこと、である。しかし、そのためには社会システム全体を変革する必要がある。

レポートの結論としては、もし政治・経済・社会システムが浪費を減らし、不平等な分配を改善するならば、科学技術は人類の危機を回避、あるいは遠ざけることが可能だとしている。人類はまさに「浪費の時代を超えて」進まなければならない。

全体をいささか科学楽観主義がたがぬき、個々にも問題となる点が少なくないが(例えば、永続的なエネルギーを獲得するまでのつなぎとして核分裂エネルギーの利用を不可避の選択としている点)、科学者の真摯な問題提起は高く評価されるべきである。ただ問題は、このような提言が十分な根拠をもっているとしても、それが必ずしも地球規模での人類の連帯、協力を呼び起こすとは限らない、という点にある。七三年のオイルショック後、世界の人々や国々のとった行動が一番よくそれを示している。人類はいつも「予定調和」の方向に進むとは限らない。政治・経済・社会システムの変革、それこそ人類全体に背負わされた十字架である。

「宇宙船地球号」(K・E・ポールディング)の未来のためにも、資源小国日本の明日のためにも、本書がひとつのたたき台となり、活発な論議が展開されることを期待する。

北園 義広